

2019年度 第2回産業医部会幹事会 議事録

日時：2019年9月12日13:00～15:00

場所：仙台国際センター 小会議室7

(第29回全国協議会 第8会場)

(敬称略)

出席：斉藤政彦、宮本俊明、西條泰明、原俊之、各務竹康、菅原保、谷山佳津子、
加藤憲忠、大橋力、塚原照臣、服部真、石川浩二、遠田和彦、伊藤正人、岩根幹能、
森口次郎、真鍋憲幸、斉藤恵、杉原由紀、小田原努、彌富美奈子、黒崎靖嘉

(監事) 深澤健二

(オブザーバー) 大神明

欠席：福本正勝、奥田昌之

1. 審議事項

① 前回幹事会議事録の確認 (資料1)

石川幹事から報告があり、承認された。これを受けてホームページへ掲載することが確認された。

② 幹事の任期について

斉藤部会長から、幹事の選任方法について、各地方会長から2名ずつが推薦され、若干名を理事長推薦幹事とすること、また任期については選挙後の3月1日付で就任、その後2年間ということが確認された。

③ 幹事の役割最新について (資料2)

斉藤部会長より、前回第1回幹事会後から、産業保健看護、健診標準フォーマット、ポスター賞担当の一部を変更した内容が提示され、承諾された。また医部会員数が大きく増加傾向であることから副部会長を2名体制とし、森口幹事が副部会長に推薦され、承認された。

④ 学術委員会 (資料3)

斉藤部会長から、学術委員会が発足したこと、森口幹事が部会を代表して任命されたことの報告があった。宮本副部会長より生涯委員会の下にあった「若手研究者の会」はこの学術委員会の傘下となり、若手論文賞表彰も学術委員会事業となることが補足された。

⑤ 医師会との関係について

日本医師会の産業医の組織化に関して、斉藤部会長から愛知県、森口幹事から京都府、斎藤恵幹事から徳島県、菅原幹事から山形県の、各医師会における取り組み状況の報告がなされた。また宮本副部会長から、本学会産業医部会へも各地方会で医師会活動への協力依頼があったことなどが報告された。

⑥ ポスター賞選考委員と選考方法について (資料4)

西條幹事(選考委員長)より選考方法について、説明があった。今回から、各選考委員

が3位までを選出する方法へ簡素化して行うことが確認された。また今後、対象演題数が多くなっていった場合について、委員会で検討することとなった。また審査員が欠席の場合は、前回全国協議会担当地方会の幹事から選出することが確認された。

⑦医部会報について(資料5)

谷山幹事から、67号を100部増冊して発行したこと、68号の進捗状況について編集作業を開始していること等報告があった。また二重投稿について、著作権の問題が発生するため、今後は執筆依頼時に二重投稿の注意喚起をしていくこととなった。今後、写真、開催要綱等の扱いもあるため、委員会である程度の整理を検討することになった。

⑧専門医制度について

大神専門医制度担当理事より、以下の説明があった。

- ・臨床系専門医を持っている場合は、社会医学系専門医をもたなくても、専攻医試験に合格すれば産業衛生学会専門医受験は可能。持っていない場合は、社会医学系専門医を事前に取得する必要がある。

- ・臨床系学会で取得したK単位は、社会医学系の更新でのK単位としてカウント可能だが、逆は確認中である。

- ・臨床系専門医(一階部分)を持っていて、専攻医から産業衛生専門医を取得した者が、取得後に産業医一本でやっていくことに心を決めた場合、外科系など手術症例が必要な臨床系専門医(一階部分)を失った場合は、他部門の二階部分である産業衛生専門医はどうなるのか、質問があった。要検討事項として回答保留となった。

⑨プロフェッショナルコース(Pコース)について

宮本副部長より、一般社団法人産業医アドバンスト研修会(浜口伝博理事長)の設立に当たって、日本医師会より強い懸念が示され、それに対して川上理事長から当該研修会は当学会とは無関係であるとの説明をし、医師会の理解を得たとの報告があった。また当該研修会の浜口理事長はPコースから外れる意向があり、Pコースの今後について川上理事長から医部会としての見解をまとめるよう部会長へ依頼があったことが報告された。

斉藤部会長から、産業医大のプレミアムコース、上記アドバンスト研修会などがある現状の中で、医部会としてPコースの位置付けについて再考する必要がある、産業衛生学会専門医との関連を模索することも視野に入れるべきということが提案された。宮本副部長より、看護部会の例をもとに、指導医を取得するための研修とすることも一案として提案され、大神オブザーバーから、歓迎する意向が示された。

⑩ホームページの活用について

黒崎幹事より、現状問題なく運営できていることが説明された。

⑪幹事会メーリングリストについて

黒崎幹事から現状全幹事へ問題なく連絡が届くようになっている旨、報告があった。

⑫部会勧誘のチラシについて(資料7)

斉藤医部会長より、4部会長で検討の上完成したチラシについて、かなり在庫があるため

今後、各地方会医部会長へ送付して、医部会員勧誘に利用していく旨、確認があった。

⑬次回幹事会の日程について

石川幹事より、2/8（土）13時から品川TKPカンファランスセンターで開催予定であることが確認された。

⑭その他

斉藤部会長より、日医総研の上家和子氏より、両立支援制度の指導料の申請が約40件とごくわずかである現状に対し、産婦人科で活用されている母性健康管理指導事項連絡カードを参考にした運用が検討されており、医部会としての意見を求められたと報告があった。各幹事から意見が出され、先方へそれらの意見を報告することとなった。

2. 報告事項

①第29回全国協議会（医部会自由集会）について

各務幹事より、復職支援について企画し準備を行っていることが報告された。

②第30回全国協議会準備報告

小田原幹事より、今後ホームページを立上げ、年度内に企画を決定する形で準備中であることが報告された。

③第31回全国協議会準備報告

斉藤部会長より、東海地方会が担当し、企画運営委員長は三重大学の笹島茂教授、運営実行委員長はシャープ（株）の酒井秀精産業医が担当し、三重県津で開催する予定であることが報告された。

④第93回学会（旭川）における医部会フォーラムについて(資料10)

西條幹事より2020年5月16日（土）13:30～の総会に続き開催予定であり、「社会医学系専門医のサブスペシャリティと産業衛生専門医制度の今後」として予定しており、K単位を付与すること、また医師会の単位も検討中であることが報告された。

⑤第94回学会（北海道）について(資料11)

塚原幹事より、5/18（火）-22（土）に松本市のホテルと、市民芸術館にて開催予定であることが報告された。

⑥健診結果のデータベース化について

宮本副部会長より、進捗状況の報告があった。

⑦各種委員会報告（生涯教育、政策法制度、学術、その他）

生涯教育委員会について伊藤幹事より、若手優秀論文について選考中、ベストGPS賞は2月までに選考すること等が報告された。

⑧各担当幹事報告

特になし

⑨理事会報告

大橋幹事より、今後はCOIの取扱いについて、座長も開示必要とするように変わった

こと、商品名の提示は一般名での掲示を求めることとなったと報告があった。宮本副部長より、所属は実際の勤務する企業名を原則とすることが補足された。

⑩四部会長会議報告

齊藤部会長より、報告があった。

以上